

## 議会改革特別委員会（第16回）

日 時	平成28年4月26日（火）午前9時から
場 所	第1議会委員会室
出席委員	全員
委員外議員	なし
欠席委員	なし
協議事項	1 飯田市議会行政視察の検証について 2 事業評価の進め方について 3 その他

### 概 要

#### 1 及び 2 について

- ・ 個々の委員の評価をどのように取り上げて委員会の意見とするのか難しいところ。少数意見もしっかり聞いて分科会で討議することが大事。
- ・ 年度途中から補正予算により立ち上げる事業のチェックをどうするか。経過をどうやって注視していくか。常任委員会の活発化が必要。
- ・ 実際に市が行っている事業について評価をすることを目的とするのか、新年度予算編成への提言を目的とするのか、目的によって我々が行う評価・提言も変わってくる。
- ・ 評価対象の抽出が最もポイントとなる。飯田市方式は、評価対象事業の抽出については、正副委員長の実任責任が大きい。
- ・ 事業の内容をチェックしようとする小事業調書の活用が有効になる。
- ・ 気になる施策をピックアップして、そこにぶら下がる事業から抽出するのが飯田市方式。大きいところから詳細なところへと入っていく。しかし、私たちは、小さな事業から入っていく方がやりやすい。
- ・ 予算審査の際に小事業調書を提供していただいた。内容が分かりやすくとても有効であった。事業評価でも、この活用を考えていければ、各議員もやりやすいのでは。
- ・ 執行部は、飯田市のような事業評価を行っていない。となると、どのよ

うなデータを提供してもらうことができるか執行部と調整が必要。まずは第5次総合計画に基づく事業に関するデータを提供してもらえるようにすすめなければならない。

#### その他

- ・ 第3回定例会から、選択式一問一答方式が試行期間を終えて本格実施となる。議会運営委員会の所管ではあるが、規則や条例の整備について本委員会で考えておきたい。
- ・ 事業評価のことを踏まえると、第2回定例会では、予算決算の委員会の立ち上げが必要となる。特別委員会がよいのか常任委員会がよいのか、予算と決算を分けるのか、全員参加型とするのか否か、結論を導きたい。

#### まとめ

##### ◎ 議会による事業評価について

- ・ 施策から事業を抽出するよりも、事業から施策を考える方が、小事業調書を参考にしている各議員にはわかりやすい。その方向で執行部と協議し、各事業に関するデータ提供を求めていく。
- ・ 議会による事業評価の目的、執行部に求めるデータ、分科会での意見集約の方法等、進め方をしっかり煮詰めて取り組む。

##### ◎ その他

- ・ 選択式一問一答方式導入に伴う規則及び条例整備について、本委員会としての考えを明らかにする。
- ・ 予算決算に関する委員会のあり方について、本委員会としての考えを明らかにする。